



つながる理由

後援会のしおり

大野城市長 井本むねじ

後援会事務所

〒816-0932 大野城市瓦田3-10-17
電話 092(502)3000・(581)8194/FAX 092(582)0392

推薦します!

井本むねじ後援会会長 牧山 恭久



ふるさと筑紫に九州鉄道（現在の西鉄天神大牟田線）が開業して一世紀が経過し、今、その軌道が宙に架かろうとしています。その令和4年は、大野城市が市制施行50周年を迎えます。

私たち後援会は、次なる100年の大事な第一歩を、30年の政治経験を積んできた井本むねじ市長に託そうと、5期目の出馬を要請した次第です。

超高齢社会を迎える、社会保障制度改革やデジタル革命、働き方改革など、既存の枠組みが大きく変わるであろうポスト・コロナ社会。私たちのふるさとを次の世代につなぐため、次期市長選挙においては、井本むねじ君に対し絶大なるご支援・ご協力を宜しくお願い申しあげます。

福岡県知事 服部 誠太郎 氏

井本宗司市長は、これまで、常に先を見た施策に積極果敢に取り組まれ、大野城市を「活力ある住みよいまち」へと発展させてこられました。

現在も、西鉄大牟田線連続立体交差事業の高架化を見据えたにぎわいづくりの準備や青少年の居場所「ユープレ」の新設など、市の未来を見据えて取り組みを進めておられます。

井本市長が、来年、市制50周年を迎える大野城市を、さらなる発展へと導いていかれることを大いに期待しています。

福岡県議会議員 井上 順吾 氏

平成17年9月から郷土「大野城」のために井本市長と共に歩み続けて既に16年。私が政治家を目指した原点には、井本市長からいたいたいた「恕（じょ）」という言葉があった。私はこの“人を思いやる心”の「恕（じょ）」に加えて、「日々これ任期」の覚悟をもって時間の針を進める努力を続けています。今日ほど首長に決断と実行が求められている時代はないと思います。大野城市的目覚ましい発展の原動力は「市民力」であり「職員力」です。その礎のもと未来のためにと献身的努力をされる井本宗司市長に5期目を託します。



福岡県議会議員 井上 博隆 氏

人類は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という、過去の歴史を振り返っても稀に見るほど困難な時代に直面しています。そのような難局にあって私達が必要とするのは、豊富な経験と実績、そして確実な政策実現能力を持つリーダーです。そしてその資質と実力を兼ね備えているのが井本宗司市長にほかなりません。アフターコロナの確かな時代を切り拓いていくためにも、井本宗司市長を心からご推薦申しあげます。



愛郷と献身。

—ふるさとを未来につなぐ—

4つの
まちづくり

100年のまちづくりにつながる 2つの政策テーマと4つのまちづくり

4期16年の実績を活かし、ふるさと大野城のさらなる発展と将来にわたって活気あふれるまちをつくるため、2つの政策テーマ「今をつくるM-プラン=今の大野城市に必要な投資」と「未来につ

ながるM-プラン=未来の大野城市的ための投資」を掲げ、今を生きる市民のためはもちろんのこと、100年先の世代にも喜んでもらう4つのまちづくりに、覚悟と信念を持って取り組んでまいります。



4つのまちづくり	今をつくるM-プラン	未来につながるM-プラン
心豊かに育つまちづくり ☆未来を担う子どもたちへ☆ (子育て・教育)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域で支える健やかな子育て ○待機児童ゼロと安心の保育環境の整備 ○子ども・若者を育む環境づくり ○教育環境の整備・充実 ○学校・家庭・地域・行政が連携した共育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◇青少年の社会参加の推進 ◇学校ICTの推進と効果的な運用による学びの充実 ◇確かな学力と豊かな人間性を醸成する教育の推進
安全で安心なまちづくり ☆市民の命と暮らしを守る☆ (都市環境・安全安心)	<ul style="list-style-type: none"> ○機能的で潤いのある都市空間の形成 ○交通ネットワークの整備 ○西鉄天神大牟田線連続立体交差事業の着実な推進 ○利用され愛される公園づくり ○生活を支えるインフラ施設の強靭化 ○環境保全と循環型社会の構築 ○災害に強く安全安心なまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇新たなまちづくりにつながる高架下空間の活用 ◇様々な危機事象に備え市民の命と生活を守る防災拠点施設の整備 ◇ゼロカーボンシティを目指した環境負荷軽減の取組み ◇災害情報伝達手段の多様化と多重化
健やかに暮らせるまちづくり ☆住み慣れたまちで自分らしく☆ (健康長寿・福祉)	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症への適切な対応 ○すこやかに暮らすことができる環境づくり ○高齢者の活躍につながる支援 ○障がいがあっても自分らしく学び生きられる環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇新しい生活様式の実践による感染予防 ◇役割や生きがいを持てる人生100年時代への対応 ◇ICTを活用した高齢者の見守り
魅力輝くまちづくり ☆大野城らしさを大切に☆ (共生社会・自治体経営)	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニティを基盤としたまちづくりの深化 ○にぎわいあふれるまちづくり ○訪れてよし、住んでよしのまちづくり ○自由に学び合い成長できる機会の充実 ○誰もが活躍できる男女共同参画・多文化共生社会の実現 ○ICTを活用した市民サービスの向上 ○日本遺産など地域の魅力を活かしたまちづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇市民と共に祝う市制50周年記念事業の実施 ◇持続可能な自治体経営の確立 ◇新たな日常に対応したデジタル技術の活用 ◇まちづくりに活かす情報通信基盤の整備促進 ◇超高齢社会に対応した多様な雇用制度の構築

井本むねじマニフェスト通信簿

井本むねじ市長が市長に就任したのが平成17年9月。これまで一貫して「市民が主人公」「愛郷の精神」「先手先取の対応」を信条に、市民の皆様に約束した施策の実現に果敢に取り組み、2016年には日経ビジネス誌の「活力ある都市ランキング」で全国2位、2017年には同じく「住みよいまちランキング」で全国1位に選ばれるなど、大野城市を福岡都市圏の中核をなすコミュニティ都市として着実に発展させてきました。

そこで、「数値で見る4期16年の実績」を「マニフェスト通信簿」としてまとめました。

数字で見る井本市政4期16年の実績

項目	H18	H23	H27	R01	成果
○コミュニケーション分野	大野市の人口	93,381人	95,977人	99,322人	100,924人 平成28年8月に10万人達成
教育・文化分野	審議会等への女性登用率	21.6%	32.1%	43.6%	42.8% 22%アップで目標の40%達成
産業・経済分野	コミュニケーションセンターでの諸証明発行件数	16,416件	27,601件	35,308件	39,638件 2.4倍以上増加
健康・福祉分野	小中学校の学校図書館の蔵書数	173,605冊	197,425冊	208,015冊	206,904冊 約33,000冊増
環境安全部	学校施設の耐震化率(主要構造部)	20%	100%	100%	100%を達成
○環境安全部	図書館貸出冊数	824,477冊	942,804冊	986,890冊	874,208冊 コロナ禍休館の影響でR01は減少
○環境安全部	市中小企業融資制度での融資実行件数	246件	276件	291件	345件 99件増加
○環境安全部	保育所の定員数	1,505人	1,549人	2,003人	2,382人 約900人増加
○環境安全部	シニア大学山城塾の受講人数	—	85人	209人	305人 220人増加
○環境安全部	介護予防教室参加者数	4,510人	4,360人	5,950人	5,748人 コロナ禍の影響でR01は減少
○環境安全部	地域密着型サービス施設の整備数	6施設	17施設	19施設	25施設 4倍増
○環境安全部	市民一人あたりのごみ排出量	610g	569g	546g	542g 68g減少
○環境安全部	災害時応援協定を締結した事業所等の数	3件	7件	26件	38件 35件増加
○環境安全部	市内での刑法犯発生件数	2,065件	1,266件	993件	573件 約1,500件減少
○環境安全部	第1種自然環境保護区域の市有化(買取済)面積	624,418m ²	860,642m ²	1,129,109m ²	1,226,089m ² 60万m ² 以上増加
○環境安全部	西鉄連続立体交差事業の進捗率(事業費ベース)	7.48%	26.67%	58.74%	75.06% 当初計画に比べ遅延現在は順調に進捗
○環境安全部	都市計画道路の整備済延長	30,566m	32,757m	40,121m	40,457m 約9.9km延伸
○環境安全部	都市公園面積	1,069,335m ²	1,227,171m ²	1,236,340m ²	1,246,178m ² 約177千m ² 増加
○環境安全部	コミュニティバスまどか号の年間利用者数	428,201人	446,859人	467,129人	477,942人 約49,700人増加
○環境安全部	雨水流出抑制施設の整備箇所数	1カ所	5カ所	9カ所	9カ所 予定箇所整備完了
○地域経営分野	市ホームページへのアクセス件数	1,111,420件	1,352,419件	1,541,513件	4,004,286件 リニューアル効果で着実に増加
○地域経営分野	財政力指数	0.74	0.79	0.79	0.82 政令指定都市を除く県内市第1位
○地域経営分野	経常収支比率	91.0	91.3	84.9	89.8 横ばい
○地域経営分野	市民一人あたりの市債残高	317,663円	272,523円	224,252円	217,112円 100,551円減少

フォトレポート

平成から令和へ ~写真で見る4期目の市政~

令和3年4月8日(木)



令和2年11月25日(水)



令和2年10月12日(月)



令和2年6月20日(土)



令和元年6月21日(金)



令和元年4月27日(土)



灾害時応援協定の調印式～災害時の物資調達と迅速な供給をはかるために(株)グッドイと協定書を締結



平成30年11月15日(木)



平成30年7月21日(土)



大野城心のふるさと館オープン～「歴史」「子ども」「にぎわい」をコンセプトにした新しい形の市民ミュージアムに期待が膨らむ

平成30年4月8日(日)



平成29年9月23日(土)



第36回おのの山城大文字まつり～市民参加型の「火のまつり」。19団体と2,500人のボランティア協力のもと、64,000人の人出で賑わう

井本むねじ市長は、市民の皆様をはじめ大野城市に関心を寄せていただいている多くの皆様に、より身近に「おおののじょう」を知っていただくため、市のホームページで「むねじのつぶやき(市長のフォトレポート)」を執筆しています。

[検索方法](#) 大野城市役所公式ホームページ ▶ 市長室 ▶ 市長執筆 ▶ むねじのつぶやき



わたしの履歴書

- 1952年(昭和27年)筑紫郡大野町、現在の大野城市に生まれる(69才)。
大野小学校、大野中学校、筑紫丘高校、早稲田大学政治経済学部を卒業。
- 1977年財団法人九州生産性本部に入社。経営学、労使関係などの研修や研究調査をする。その間、九州共立大学非常勤講師も務める。
- 1991年福岡県議会議員初当選
- 1997年福岡県議会警察常任委員長
- 2001年九州国立博物館設置対策調査特別委員長
- 2002年議会運営委員長
- 2003年5月 / 第56代福岡県議会議長に就任
(2005年2月まで)
- 2005年7月 / 県議会議員辞職
- 2005年9月 / 第4代大野城市長に就任
- 2009年9月 / 市長2期目再選
- 2013年9月 / 市長3期目再選
- 2017年9月 / 市長4期目再選



平成3年県議初当選



平成15年福岡県議会第56代議長就任



平成24年大野城市制施行40周年記念式典



「れいわ子ども情報センター」リニューアルオープン



青少年の居場所「ユープレ」オープン

現在の公職

- 福岡県市長会 理事
- 福岡県自治振興組合 管理者
- 福岡都市圏広域行政事業組合 運営委員
- 春日大野城那珂川消防組合 組合長
- 大野城太宰府環境施設組合 組合長
- 春日大野城衛生施設組合 組合長
- 福岡都市圏南部環境事業組合 管理者



愛郷と献身 一ふるさとを未来につなぐ一

情・熱・発・信



私の決意

～コロナ禍での戦い、ニューノーマル社会に備える～

井本むねじ

後援会並びに市民の皆様の温かいご支援のもと、「自治体仕事宣言、実力・サービスNo.1自治体」を訴え初当選してはや16年の歳月が経とうとしています。4期目当選直後には日経BP社の「シティブランド・ランキングー住みよい街2017」で全国一位を獲得し、大野城市的市民力と職員力の高さを証明することができ、ふるさとへの誇りを一段と深めることができました。

しかしながら、この一年半は新型コロナウイルスとの戦いに世界中の人が行動を規制され、当たり前の日常や生活様式が一変させられる事態となっています。大野城市も、昭和47年(1972年)の市制施行から50周年という大きな節目を前にして歩みの速度を緩め、「市民の生命と暮らしを守りぬく」ことを最優先に政策選択を行なっていますが、その一方で次なる50年に向けた布石は打ち続けなければなりません。新たな賑わいの拠点となる高架事業は着実に進めながら、未来につながる市の軌道にも目を凝らし、このトンネルの先に希望の火を灯すことこそ私の責務であると熟慮を重ね、次期市長選挙への出馬を決意した次第です。

コロナ後のニューノーマル社会には、少子高齢化や人口減少、デジタル化、財政の硬直化、危機対応、老朽施設再編、共働の新しい形など、先送りできない多くの課題が横たわっています。立候補するにあたり、愛郷と献身の誓いを再び揚げ「ふるさとを未来につなぐM-プラン」を選挙公約(マニフェスト)として提案いたしました。次なる50年への大事な第一歩を踏み込むコロナ禍での夏の陣となりますが、皆様方の旧に倍するご支援とご指導・ご鞭撻を衷心よりお願い申しあげます。

井本むねじ後援会役員

- | | |
|-------|--|
| 会長 | 牧山 恭久 |
| 副会長 | 角 敬之(会長代行) 城戸 賢児 原 文彦 手塚 隆行 藤田 一行 |
| 顧問 | 古賀 茂實 桑野 建治 瀧 洋之介 小谷 信彦 馬場 清子
添島 未智子 松田 孝一 安河内 俊明 三上 博文 |
| 相談役 | 永野 義人 佐藤 義廣 香野 信儀 安成恵子 高山やす子
神野 芳行 天野 嘉久孝 |
| 瓦田後援会 | (会長)畠 善三郎
(副会長)藤 健吾 末永 俊英 濑利 徳 濑利 勉
(事務局長)北崎 浩
(青年部長)藤 尚憲 |
| 市議団 | 田中 健一 山上 高昭 |
| 宗和会 | (会長)中田 泰之 (副会長)佐藤 章成 |
| 七日会 | (会長)本多 一男 (副会長)江藤 国義 森 茂行 高原 広文 |
| 団体 | (商工)花田 稔之 (医療)石橋 正彦
(福祉)鳥居 正敏 (スポーツ)関 明廣
(文化)長澤 幸司 (自民)藤 嘉昭
(農政)井上 一雄 |